

病防第94号
令和2年7月22日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について(送付)
このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記
令和2年度病虫害発生予察注意報第3号
(斑点米カメムシ類)

令和2年度病虫害発生予察注意報第3号

令和2年7月22日
岐 阜 県

作物名 水 稲

病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 7月下旬以降
- 3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) 5月第1半旬から7月第2半旬の予察灯におけるアカスジカスミカメ累積誘殺数は、高山市国府町で246頭(平成61.3頭)と平成の約4倍(図1)、美濃加茂市下米田町で34頭(平成12.9頭)と平成の約2.6倍(図2)、恵那市三郷町で47頭(平成26.5頭)と平成の約1.8倍であった(図3)。また、同期間のアカヒゲホソミドリカスミカメ累積誘殺数は、下呂市萩原町で101頭(平成45.2頭)と平成の約2.2倍(図4)、恵那市三郷町で96頭(平成51.8頭)と平成の約1.9倍であった(図5)。
- (2) 7月中旬に実施した水田畦畔のすくい取り調査において、岐阜・西濃、中濃及び東濃地域36地点のクモヘリカメムシ平均成虫捕獲数は0.7頭(平成0.4頭)と平成の約1.7倍と多かった(表)。他にもホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、イネカメムシ、アカヒメヘリカメムシ等大型カメムシ類の本田への飛び込みが目立ち、出穂期以降さらに本田への侵入が多くなること懸念される。

5 防除上の注意事項

<本田および畦畔の管理>

- (1) 斑点米カメムシ類は、主に出穂期と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稻を加害し、斑点米を発生させる。
- (2) 斑点米カメムシ類の生息密度を低減させるため、畦畔、農道ぎわ、水路ぎわ、休耕田及び水田周辺などの除草を地域全体で一斉に行う。特に、イネ科雑草は好適な餌植物となるため出穂させないように管理する。
- (3) 水稻の出穂直前及び出穂後の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込み、被害を助長する恐れがあるので出穂10日前までに実施する。

(4) 水田内のヒエ類等のイネ科植物は好適な餌植物となるため、水稻が出穂する前に除去する。

<薬剤による防除>

- (1) 散布剤による防除は穂揃期及びその7~10日後の2回実施する。
- (2) 粒剤による防除は出穂期の7~10日後を基本とし、防除時期が遅くならないように注意する。
- (3) 住宅地付近での防除は、事前周知に努め、薬剤が飛散しないよう注意する。
- (4) ミツバチが飼養されている地域で防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。
- (5) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター)

— 参考資料 —

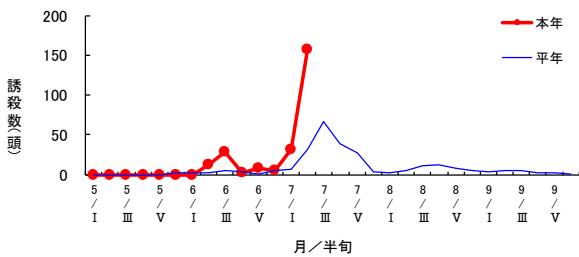


図1 アカスジカスミカメ誘殺数の推移
(高山市国府町 予察灯)

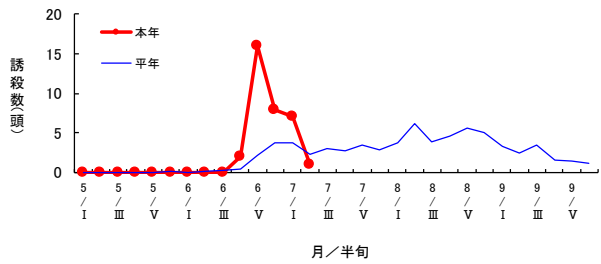


図2 アカスジカスミカメ誘殺数の推移
(美濃加茂市下米田町 予察灯)

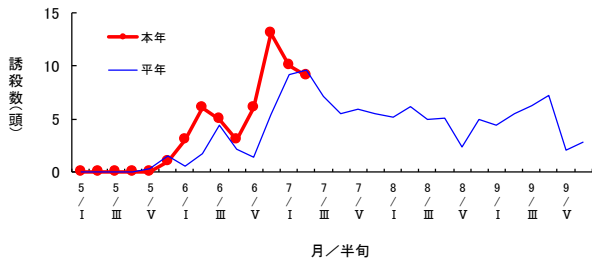


図3 アカスジカスミカメ誘殺数の推移
(恵那市三郷町 予察灯)

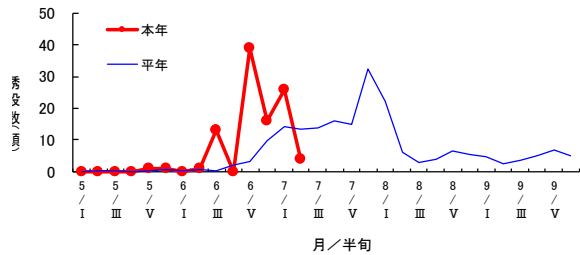


図4 アカヒゲホソミドリカスミカメ誘殺数の推移
(高山市萩原町 予察灯)

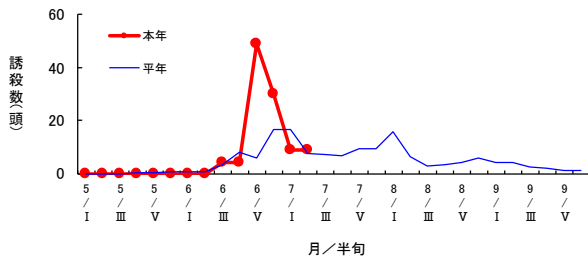


図5 アカヒゲホソミドリカスミカメ誘殺数の推移
(恵那市三郷町 予察灯)

表 水田畦畔のすくい取り調査におけるクモヘリカメムシ成虫捕獲数(頭/地点)

	本年	平年
岐阜・西濃地域	0.4	0.3
中濃地域	1.5	0.7
東濃地域	0.2	0.1
平均	0.7	0.4

各地域12地点(1地点3筆)を調査